

生き生きと学び合う子どもの育成〈3年次〉

～「教えて考えさせる授業」を通して、すべての子どもに「確かな学力」を～

研究の概要



平成22年10月
寒河江市立南部小学校

CONTENTS

研究の概要	P. 1 – P. 6
これまで職員間で話題になったこと	P. 7 – P. 9
提言…「教えて考えさせる」という 原点から授業を見直す（市川氏）	P.10 – P.11
家庭学習の手引き	P.12 – P.14
概要説明資料	P.15 – P.19
参考文献・資料等	P.20

平成22年度 学校研究 全体構想図

教育目標

学び確かに 心豊かに 体健やかに

研究主題

生き生きと学び合う子どもの育成 <3年次>

～「教えて考えさせる授業」を通して、すべての子どもに「確かな学力」を～

【県五教振】

【やまがた

コミュニケーション改革】

【寒河江市教育振興計画】

【保護者・地域の願い】

確かな学力・豊かな人間性

【本校の緊急的な課題】

◎基本的な生活習慣の確立

◎学びに向かう姿勢

・学習規律の確立

◎家庭・地域との

学習上の連携

【子どもの実態】

・基礎的基本的な学力の

定着が弱い（算数）

・個人の学力差が大きい

・知識の活用が難しい

【指導形態の工夫】

少人数指導、TTの充実

【家庭学習】

・予習や復習、宿題

・家庭学習の手引き活用

（学び方の指導）

教えて考えさせる授業

～4つのステージ～

I 予備的知識・
先行学習（しる）

II 理解確認（たしかめる）

III 理解深化（かんがえる）

IV 自己評価（ふりかえる）

【基礎学習の時間】

・つくし学習

計算等の基礎的な学

習・反復（スパイラル）

による習熟と定着

【放課後学習】

・学びのルームの活用

これからの教育

・習得と活用、探究のバランスのとれた学習活動

・体験的活動、言語活動の充実

【めざす子ども像】

・基礎的な知識や技能を身につけ、活用していくことができる子ども

・自分の考えを持ち、伝え合うことができる子ども

・互いに学び合い、学習に意欲的な子ども



【研究の概要】

1 研究主題

生き生きと学び合う子どもの育成 <3年次>
～「教えて考えさせる授業」を通して、すべての子どもに「確かな学力」を～

2 主題設定の理由

平成23年度より完全実施となる新学習指導要領においては、「生きる力」の理念はそのままに、児童一人ひとりに「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育てることが求められています。これは、本校の教育目標である「学び確かに 心豊かに 体健やかに」と直結しています。

また、生きる力（知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力・課題発見力・問題解決能力、さらには、学ぶ意欲や学び方などを総合的にとらえた学力）の実現のために「習得・活用・探究」「言語活動の充実」も重要視されています。

こうした社会的情勢の下、本校の子どもたちは、以下のような点に弱さが見られました。

- ①基礎・基本の定着にやや不十分な面があると共に、学習した内容を活用する能力に個人差が大きい。
- ②問題解決的な学習のよさを十分生かしきれず、新しい学習事項をていねいに教えたり、児童・生徒の理解状況を確認したりすることが不十分なまま授業が進むという現状が見られ、そのため、理解に時間を要する子どもは自力解決もできず、討論にもついていけなかった。

こうした実態を受け、本校では、昨年度より「教えて考えさせる授業」を授業改善の一つの方法的な視点として取り組んできました。そして、以下のような成果が生まれました。

<子どもの成果>

- ・課題に対して教師がわかりやすくていねいに教えるため、理解に時間を要する子どもも安心して問題に取り組めたり、ノートの取り方がわかってきたりしている。

<教師の成果>

- ・「この時間で何を教えるか」を、教師が明確に持つことがとても大切だと再認識できた。子どもの実態から「何を教えるのか」「何を子どもに任せるか」を考えて授業を仕組むことの大切さを改めて学ぶことができた。

つまり、「教えて考えさせる授業」をもとにした授業改善により、子どものみならず、教師の意識改革にもつながったのです。しかしながら、同時に課題も出ました。

<子どもの課題>

- ・授業前半が教師の教えるという活動のため、どうしても、子どもが受身がちになってしまう。

<教師の課題>

- ・単元や題材、また、子どもたちの実態によっては、教えて考えさせる授業が窮屈である。

先述したように、今回の学習指導要領では、基礎基本の習得と活用、探究が強く謳われています。日々の授業実践の中で、習得や活用が図られるために、「教える」とはどういうことか、「何をどう教えるのか、考えさせるのか」を常に念頭に置きつつ、昨年度に引き続き、「教えて考えさせる授業」を通して、子どもたちの学ぶ意欲や学力を高めていきたいと考え、この主題を設定しました。

3 研究の視点

研究にあたっては、本校の子どもたちの実態から、教えるべきことをきちんと習得させ、問題解決を通して、思考力、判断力、表現力を育てるべく、昨年度に引き続き「教えて考えさせる授業」を、授業の一つの方法的な視点とします。

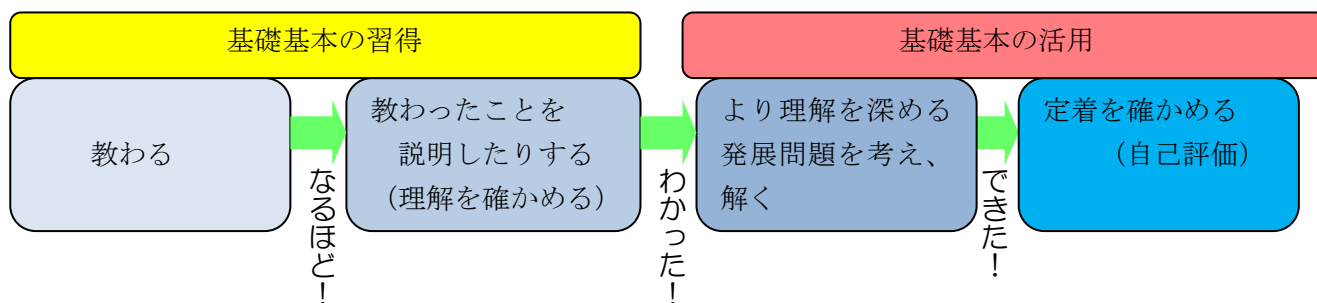
教科書に示されているような基礎的な知識・技能を習得させ、活用できるようにすることは、日々の授業のめざすところです。そして、教科書をこえたより高い質の学び合いをもめざしたいと思います。確かな学力を育て、めざす子ども像に迫るためには、学校として共通の視点に立つ授業を展開しなければなりません。

そのような観点から「教えて考えさせる授業の考え方」をよりどころにして、また、昨年度の課題をクリアする南部スタイルを確立していきたいと考えています。

4 研究計画

(1) 「教えて考えさせる授業」について

「教えて考えさせる授業」とは、東京大学の市川伸一教授が提唱するものです。(p.11 提言参照) これまでの多くの授業は、児童・生徒が主体となり問題解決を行うことを目指して行われてきました。しかし実態は、すぐに理解できる子どもにとっては簡単すぎ、ゆっくり理解していく子どもにとってはどのように問題解決を行ってよいか分からないといった授業になりがちでした。その結果、理解の早い子どもは退屈し、理解の遅い児童・生徒は分からないまま時間だけを浪費してしまう現状であったと反省します。そこで、どの子どもにも基礎的・基本的事項の定着を図り、学習内容をより深く理解するために、授業の前半に「基本的な事項は教師から共通に教え」、授業の後半に「理解を深める課題によって問題解決や討論を行う」という授業の流れが「教えて考えさせる授業」といえます。



～長崎県教育センター「リーフレット」参考～

これをもとに南部小では、教えて考えさせる授業を次のように定義することにしました。

教師が子どもの実態を的確に把握し、
全体や個・グループに応じて、考えを深める上で必要な知識や技能内容を分かりやすく教え、
それを土台に、どの子どもも問題解決に向けてじっくり考えたり、学び合ったりする授業

(2) 基本的な単位時間の構成（「教えて考えさせる授業」モデル）

昨年度の実践からの反省点を取り入れ、以下のような点に留意しながら授業を作っていきたいと思います。

①授業作りの手順

- ・本時の目標（ねらい）を明確にする。
- ・ねらいに到達させるために、子どもに「何を教えるのか、考えさせるのか」を明確にする。
- ・学習の途中で、きちんと理解しているか、理解度を図りながら授業を仕組む。

②「教えて考えさせる授業」モデル（南部スタイル）

段階		内容	○教師 と ・子ども
教える	I し る	後半の、考えるために必要な知識技能を教わる	・予習の確認や例題を解く (無理のない程度) ○具体物を用いるなど、解き方の説明を分かりやすく工夫する。 (受身にならないような工夫・問題解決の必要感が生まれる工夫)
		教わったことがわかったかどうか確認する	・例題の説明活動（ペアの教え合い等） ○状況に応じて、補足説明や間違いの補正をする。
		間違いやすい問題や教わったことを使って問題を解く。	・問題（応用的内容）を解く。 ・学び合い活動（小グループ等） ・考え方の全体発表等。 ○状況に応じて指導する。
		学習内容をふりかえる。	・わかったこと、わからなかったこと先生への質問など書く。 ○理解状況を把握し、次時の指導の修正や個別指導の資料とする。

ポイント

新しい学習内容を
ていねいに教える
※一方的な説明ではなく
「対話的な説明」をする。

新しい学習内容について
理解度を確かめる
※基本的な問題を課したり
説明させたりする。
(ペア・小グループ等)

教えた知識・技能を活用する
問題解決に取り組みさせる
※誤解しがちな問題、応用、
発展等の問題をさせる。
(集団解決等)

わかったことやわからなかったことを自己評価させる
※理解状況をとらえて個別
指導にいかす。
(メタ認知)

【昨年度の実践を受けての修正点】

領域単元の特性や子どもの実態に応じて
A：1単位時間が「しる」のみ
B：1単位時間が「しる」「たしかめる」まで
C：2単位時間で「しる」～「ふりかえる」まで
柔軟に構成する

教えることが中心となる「習得の授業」と問題解決を通して考えさせることが中心の「活用の授業」のバランスを柔軟に。
→指導者の明確な授業構成が必要

(3) 学びの環境整備

「確かな学力」を育てるためには、学習の規律や習慣を育て、学習内容の習熟と定着を図ることが必要ととらえ、次のように、授業と関連する取り組みをしています。

①つくし学習（ドリルタイム）の導入

- ・ 1 学年下の学習内容を、反復（スパイラル）し、
基礎の習熟と定着を図る。
- ・ 毎週火曜日の朝 8:15～8:30 各教室において
全職員の指導体制で。



②家庭学習の手引きの作成

- ・ 家庭で勉強する習慣を身に付けさせるとともに、授業の予習や復習にも生かせるように勉強の仕方を記した手引きを配付し、家庭の協力を得て、学習習慣を育てる。

（低・中・高ブロック毎に作成し、4月のPTA総会・学年懇談の折に配布…p.12-14 参考）

③学びのルームの活用（放課後学習）

- ・ 授業でのつまずきに対応するとともに、個々の学習状況に応じた指導を通して、学び方も身につけさせる。
- ・ 3年以上、希望する児童を中心に、30～45分程度。
- ・ 担任および担外の指導体制で。



④学習環境整備（掲示）

- ・ 各学年での授業の様子を紹介したり
学習ノートの上手な子どもの掲示をしたりする。（良さの可視化）
- ・ 他学年の学習の状況を、子ども自身がモニターすることにより
学びの雰囲気を高めていく。



(4) 研究の進め方

めざす子ども像にせまるために、「算数」を教科の窓口として進めています。

(5) 研究の仮説と重点

仮説1（教える段階の工夫等）

「教える段階」において、新しい学習事項を丁寧に分かりやすく教えれば基礎的・基本的事項を確実に定着させることができるであろう。

仮説2（考えさせる段階の工夫等）

「考えさせる段階」において、新しい学習事項の理解確認を的確に行い、理解を深化させる課題の設定や場の工夫をすれば、活用力が育つであろう。

◎仮説の重点

<仮説1について>

- 「何」を教えるかを明確にする。→指導案に明記する。
- 教えるための工夫をする。
 - ・ 具体物や映像を見せる
 - ・ いろいろな例をあげる
 - ・ 操作活動を取り入れる
 - ・ 比較させる
 - ・ 考える手法を教える
 - ・ 問題文をかみくだく 等

<仮説2について>

- 「何」を考えさせるのか明確にする。
 - ・ ペア、小グループでの説明活動
 - ・ 教え合い活動
 - ・ 理解度のチェックの仕方
 - ・ 教わったことが活きる理解深化課題の設定
（間違いさがし、穴あき、過不足のある問題、問題づくり、教科書の発展問題）の工夫
 - ・ 共同解決、討論
 - ・ 自己のふりかえり方法 等

これまでの研究のあゆみ（平成22年度）

月	日	(曜日)	低学年	中学年	高学年	備考	
4	21	水	校内全体研修会①				
5	17	月	職員会議後 5/24の事前研				
5	18	火	6/30(水)に向けての事前訪問(午前中)				
5	24	月			6-2 鈴木 ブロック研だが 共通理解のため 全体研②とする	授業改善プロジェクト	
6	16	火			ひろのみなみ		
6	21	月	1-2 真田	4-1 渡辺		指導主事招聘 事後全体研③	
6	30	水	計画訪問のため、全クラス各教科授業				村山教育事務所計画訪問 授業改善プロジェクト
7	27	火	校内全体研修会④(1学期の反省・共同指導案作成・DVD視聴研修)				
8	18	水	校内全体研修会⑤(2学期の方向性確認および授業改善プロジェクト)				
9	15	水		4-2 柏屋			
9	27	月	2-2 横山				
10	15	金	2-1 渋谷	3-2 鈴木泰	5-1 土田 5-2 長岡政	自主公開研究会 授業改善プロジェクト	
11	10	水		3-1 奥山	6-1 阿部宏	指導主事招聘 授業改善プロジェクト (研究の今後の方向性 ≡事後全体研⑥)	
1			校内全体研修会⑥(今年度の成果と課題および来年度の研究の方向性)				

村山教育事務所「授業改善プロジェクト事業」への取り組み

- ・ 5月24日(月)の授業研・事後研に参加→
その後、6月30日(水)に算数をするクラスの事前研に参加
- ・ 6月30日(水)計画訪問授業の事後研

【自主公開授業研究会に向けて】

- ・ 8月18日(水)の夏季研修で、10月15日(金)の事前研(低・中・高)
- ・ 8月27日(金) 低学年事前研(太田指導主事来校)
- ・ 9月10日(金) 中学年事前研(大場指導主事来校)
- ・ 9月13日(月) 低学年事前研(太田指導主事来校)
- ・ 9月27日(月) 高学年事前研(遠藤指導主事来校)
- ・ 10月15日(金) 自主公開研への参加

【これまで職員間で話題になったこと】

1 予習について

昨年度までは、予習についてあまり深く議論せずに授業実践を行ってきました。しかしながら、今年度、教える段階でのコンパクト化を図るときに、どうしても避けては通れないということがわかってきました。

つまり、一時間の中で考えさせる時間を十分確保するためには、教える段階で、「教える内容」を厳選する必要があること、そのためには、あらかじめ今日学習する内容について、ある程度子どもたちが触れていることで、問題意識や学習への構えが生まれ、教える段階がよりコンパクトで充実するということです。

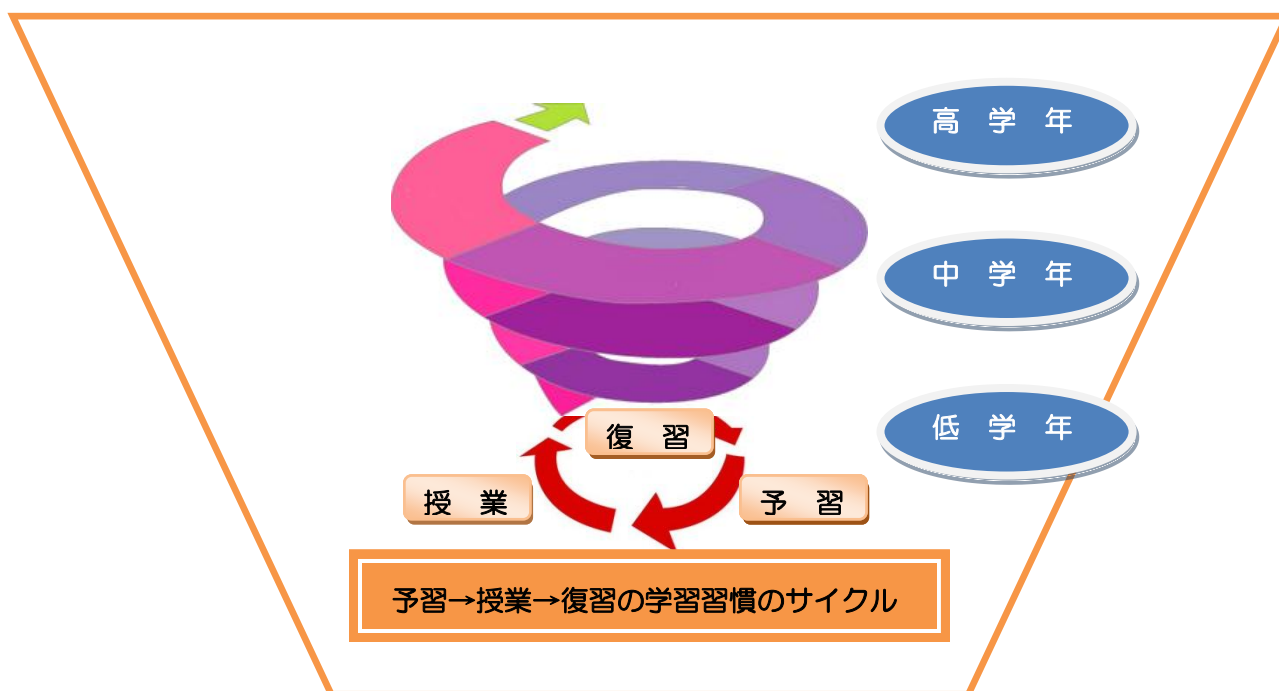
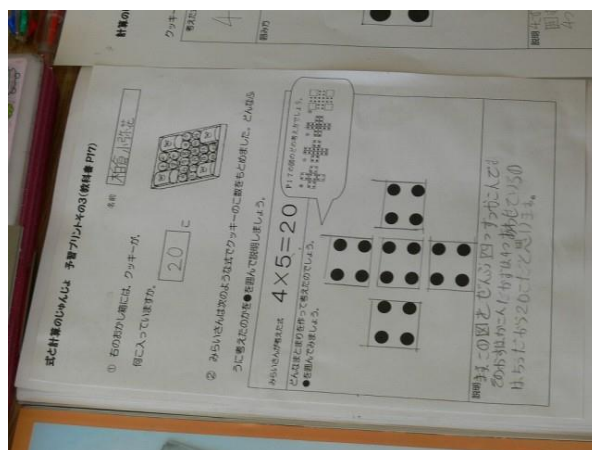
よって、予習しておくことは、昨年度までの「教える段階で、子どもたちが受身がちである。」という部分をクリアできるのではないかと話し合われました。

予習の度合いや方法については、各学年の実態に応じて、より狭いところでは各学級の実態に応じてとなりますが、以下のような実践が積み重ねられてきています。

- ・教科書を読んてくる。
- ・教科書の穴埋め問題を書き込んでくる。
- ・教科書を丸写ししてくる。
- ・予習プリントとして宿題として課す。
- ・授業の始まる前、もしくははじめの時間に予習の時間をとる。
- 等

予習とは、例えば、私たちが旅行に出かけるとした時に、「目的地までの行き方」だったり「名物や名産」「有名な場所」だったり、あらかじめ予備知識として知っておくことで、より充実した旅行になることと同じ意味を持つのかもしれません。

ただし、低学年の児童にとっては、予習は難しいものであるとも話し合われました。よって、中学年や高学年というように学年が上がるにつれ、徐々に予習といったものに慣れていければよいのではないかと現在はとらえています。



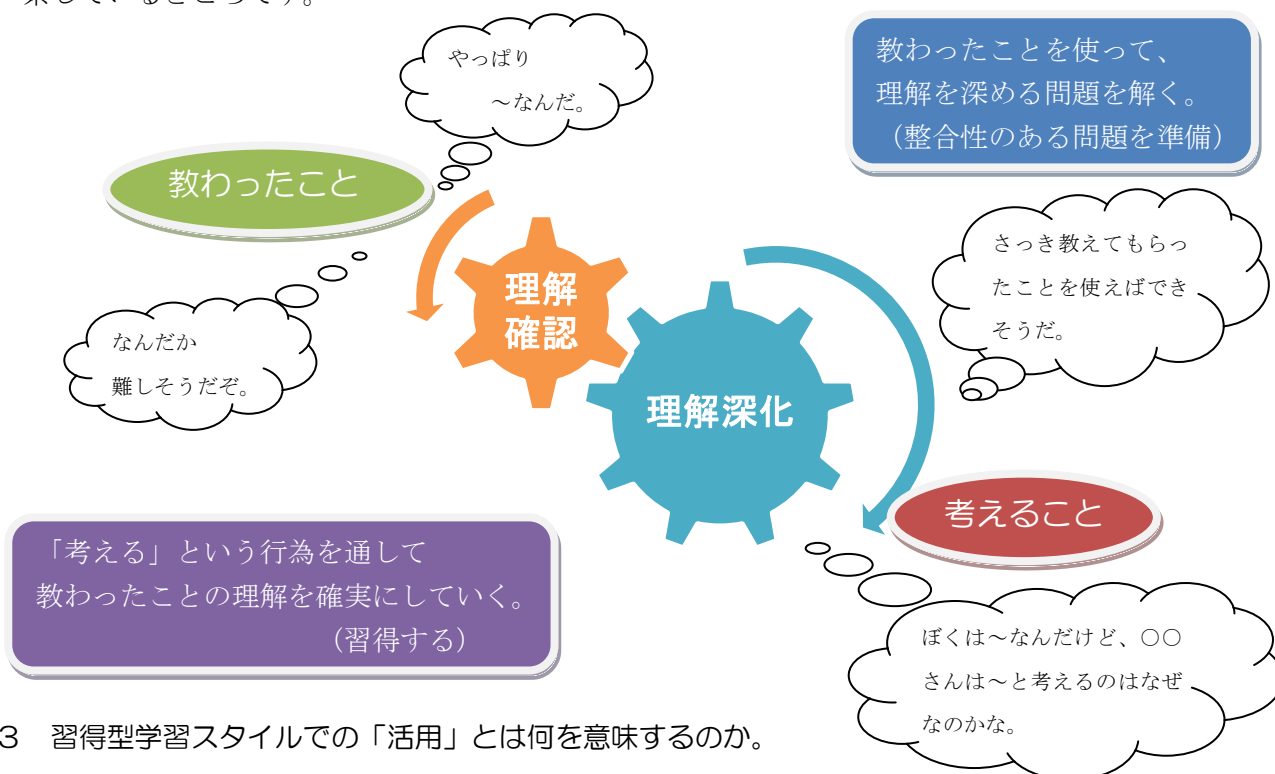
2 「考えさせる段階」での理解深化問題や場はどのようなものがよいか

この「考えさせる段階」は、本校の研究テーマにもある「子どもたちの生き生きと学び合う姿」が最も現れやすい場面でもあり、同時に、授業の前半で「教えた内容」の習得を図る場面でもあります。習得型の学習スタイルと言うと、どうしても教え込みの強いイメージがありますが、決してそうではありません。

さて、「考えさせる段階」での理解深化問題や場はどのようなものがよいか、ずっと議論されてきました。そして、私たちなりに、以下のような問題や場が適切ではないかとわかってきているところです。

- 問題解決に必要な情報が多かたり少なかったりする問題
 - 間違い探して、どこが間違っているのかを問う問題
 - 体験活動（算数的活動）を行い、試行錯誤して理解を深める場
 - 教科書の発展問題
 - 問題作り
- など

もちろん、これがすべてというわけではありません。現在もなお、引き続きよりよい問題や場を模索しているところです。



3 習得型学習スタイルでの「活用」とは何を意味するのか。

本校でとらえる「活用」とは

本校の授業スタイルは、いわゆる「習得型学習スタイル」です。その中で、「活用」といった場合、本校なりの定義をするならば、次のように共通理解することとしました。

「教わったこと（知識・理解）を使って、問題を考えること」

理解深化問題を解く中で、教えたことに振りかえらせて、習得を図ること。つまり、教わったことと考えることが、子どもたちの中で行きつ戻りつする状態を活用しているととらえます。

4 「確かな学力」とは、何をさすのか

研究のサブテーマにある「確かな学力」とは何を指し示すのかが話題になったことがあります。そこで、本校では「確かな学力」を「基礎・基本をしっかりとらえている姿」とイメージしています。

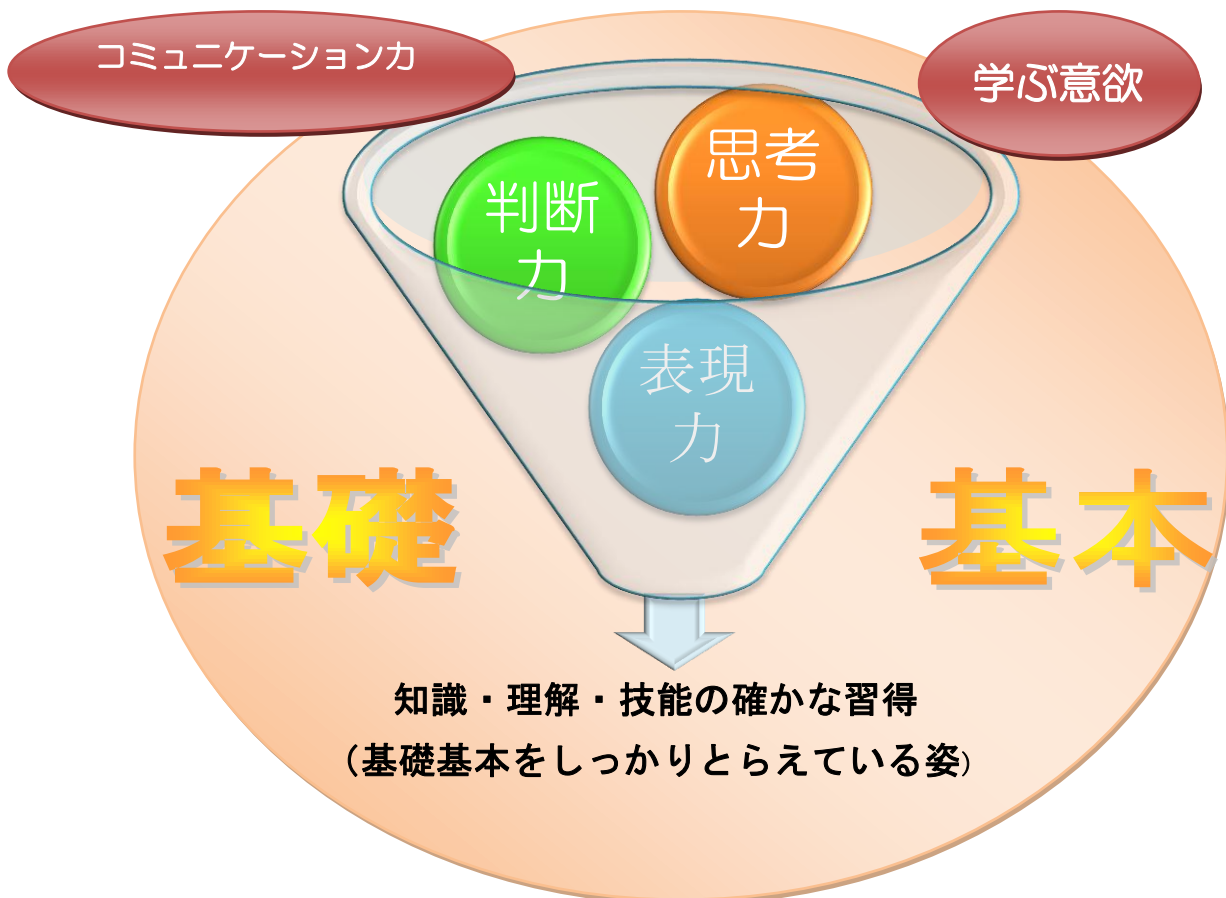
では、「基礎・基本」とは一体何でしょう。従来ですと「知識・理解・技能」あたりを指し示していたように思いますが、本校では、「知識・理解・技能」にプラスして「思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力・学ぶ意欲（姿勢）等」といったものも含めたいと考えているところです。

「なんだ、すべてじゃないか。」と思われるでしょう。しかし、知識・理解・技能といったものは、単独で獲得できるものではなく、上述したような総合的な、複合的な力が融合し合って初めて、真に力がつくものと言えるのではないのでしょうか。（≒生きる力の実現）

繰り返しますが、「教えて考えさせる授業」では、初めに教師から学び、その内容を使って理解深化問題を解くという活動が入ります。

ここで、友達とかかわり合い、自分の考えを表現したり正誤を判断したりすることで、教わったことがよりしっかりと習得できたという状態になるのでしょう。

しかしながら、本校ではそれぞれの力を育成していくための視点がまだ明確ではありません。具体的に言えば、友達にわかりやすく説明するための系統などがまだ学校として統一されていない現状があります。ここは、私たちの今後の課題の一つとなっているところです。



に取り組む機会を与えることができるのである。

三 「教えて考えさせる授業」への誤解

「教えて考えさせる授業」は、一九〇年代の行き過ぎた教育方針にバランスを取り戻そうというごく自然なあたりまえの提案の一つといえよう。しかし、単純化された表現にしてしまったために、誤解や反発を招きやすかったことも確かである。とくに、「教えて考えさせる教育」（中教審答申、二〇〇五年一月）、「教えて考えさせる指導」（中教審答申、二〇〇八年一月）というブレースとして使われたことにより、用語だけが一人歩きして、その趣旨が十分理解されないまま、広まっているようにも思受けられる。「教えて考えさせる授業」は、問題解決学習や討論を否定するものだととらえる向きがある。これは最大の誤解の一つである。「教えて考えさせる授業」は、より有効な問題解決学習、より多くの児童・生徒が参加できる討論を行うための一つの手段と考えるべきだ。同様に、「教えてしまつたら、考える力や意欲がつくのか」という疑問が起きれることもある。「教えて考えさせる授業」は、基本的な内容は確かに教えるが、それをもとにして、理解深化として、さらに考えを深めたり発展させるような学習活動を行うのである。また、こうした指導法によって習得かなされる

「教えて考えさせる授業」構築の3レベル		
段階レベル	方針レベル	教材・教示・課題レベル
教える	授業の概略と疑問点を明らかに	<ul style="list-style-type: none"> 通読して分からないところに付箋を貼る まとめをつくる／簡単な例題を解く
		<ul style="list-style-type: none"> 教科書の活用：音読、図表利用 平行四辺形の面積：傾けのワザ 等しい比：口を求めめる3ステップ 代表生徒との対話 理由の確認 挙手による、賛成者の確認
（予習）	教材・教具・説明の工夫	
		対話的な説明
教師からの説明		

段階レベル	方針レベル	教材・教示・課題レベル
考えさせる	疑問点の明確化	<ul style="list-style-type: none"> 教科書やノートに付箋を貼っておく ペアやグループでお互いに説明 分かったという生徒による教示
理解深化	誤りそうな問題	<ul style="list-style-type: none"> 平行四辺形の面積：情報過多問題 てこのはたらき：棒曲げ問題 わり算の導入：問題づくり 円周率：筆測値がちよつと3.14にならない理由
	応用・発展的問題	<ul style="list-style-type: none"> ウェブ運動：開脚前転のコツ かんな削り：刃の出し方、削る姿勢
自己評価	試行錯誤による（技能）の獲得	
	理解状態の表現	<ul style="list-style-type: none"> 「わかったこと」「わかっていないこと」

大人でもわからないこと
とやらもわからないこと

（参考文献）

- 市川伸一「教えて考えさせる授業」を創る（二〇〇八年、図書文化社）
- 市川伸一・鍋木良夫編著「教えて考えさせる授業 小学校」学方向上と理解深化をめざす指導プラン」（二〇〇七年、図書文化社）

◆提言◆ 「教えること」の復権・何が課題か

「教えること」の復権・何が課題か

「教えて考えさせる」という原点から授業を見直す



東京大学大学院教育学部研究科教授 市川伸一

一 自力解決に委ねる授業の危うさ

「教える」「指導」「知識」などの言葉は、「ゆとり教育」が推進された一九九〇年代の小学校ではタテマで扱われていた。ところが、当時、優勢となったアクトでは、「新しい学力観」「指導より支援」「子ども主体」「問題解決学習」「自力解決」といったものである。こうした傾向は、とくに、「問題解決型」の教科といわれる算数・数学や理科によく見られた。研究授業や教科書の指導書でもそうした授業展開が示されることが多い。

それは、「教科書に導入として出ているようなことを教科書を閉じて考えるよう促す」という授業方法によく現れている。原則として、学校で未習のことは、教師が直接教えるのではなく、子どもたちに発見させたというなら大きな指導方法であるといえよう。

一 習得の授業は「教えて考えさせる」を基調に
私自身は、学力低下論争に収束のきざしが見えてきた二〇一〇年ごろから、「習得と探究のバランスとリンク（結びつき）をはかること」「基礎・基本の習得においては、『教えて考えさせる授業』を基調とすること」を強く主張するようになった。これは、いわばアクトリエとも言える話であって、社会におけるさまざまな教育場面から見ても、学習理論の裏づけから見ても徳田な議論だったと思う。

いがある。もちろん、考えるための知識の役割を否定しているわけではなく、「既習を生かして考える」という言葉はよく使われた。また、実際には、既習内容だから自力解決するのは難しいから、教師がヒントを与えたり、クラスの中で話し合いを通じて、ということになるが、最後の結論や解は子どもが「発見」することとせざるを得ない。こうして発見された内容が既習事項に組み込まれていくというだけである。

扱一の議論を超えて、調和のとれた教育、充実した学力形成を達成したいという思いが込められている。基礎・基本の習得と、そこで得た知識・技能を活用し、自らの興味・関心に沿って探究する活動と、車の両輪と考えるといつてよい。知識・技能の「習得」の学習では、「教えて考えさせる」という一種の順序性を原則としたほうがよい。わかりやすいのは、実技系の教科だが、イラストレーターがポイントを言葉で教えたり、演示したりして、必要な情報を与える。これが「教える」部分になる。そのあと、学習者はそれを参考しながら自分で試行錯誤し、しだいに技能を身につけていく。これが「考えさせる」部分になる。

算数・数学や理科の場合、未習事項でも基礎的なことはまず教師からいねいに教え、その理解度をチェックしてから、問題解決や討論へとすすむのが習得型の授業として現実的である。学力の低い児童・生徒にも基礎学力を保証することなどで、その先の問題解決に参加する機会を広げることができる。一方、塾で先取り学習しているような児童・生徒にとつても、チャレンジングな考えがいのある課題



かていがくしゅうのてびき (1・2ねんせいよう)

さがえしりつ なんぷししょうがっこう

1・2ねんせいの めやすは、30ぷんです!!

べんきょう の すすめかた

1 テレビなどは けしましょう。

しゅくだい宿題は学習をたしか確かにみ身につけ、かてい家庭
がくしゅう学習を毎日まいにちする習慣をそだ育てます。

2 しゅくだいを しっかりやります。

- ① じは、ちからをいれて しっかり ていねいに かきます。
- ② ノートは したじきをして つかい、ひづけを かきます。
- ③ どうしても わからない ところは、せんせいに ききましょう。

3 ほんよみをします。

- ・こくごのきょうかしょ、かんなんテキストなど、すらすらよめるようになるまでれんしゅうしましょう。
- ・おおきなこえで、ゆっくり、はっきり よみましょう。
- ・かわいぶんなどは、きもちをこめてよみましょう。
- ・さんすうの きょうかしょも、つぎにべんきょうするところを よみましょう。



4 しゅくだいが おわったら、じしゅべんきょうを します。

◇こくご

- ・ひらがな、かたかなれんしゅう (ことばあつめ、しりとり)
- ・かんじれんしゅう (ドリル、ぶんつくり)、さくぶん

◇さんすう

- ・けいさんれんしゅうもんだい (ドリル、きょうかしょなど)
- ・ぶんしょうもんだいづくり (しきと こたえも)
- ・ながさしらべ

【お家の方へ】

- ☆音読・暗唱を聞いて、励ましてあげてください。
- ☆お子さんの学習に毎日目を通してあげてください。
- ☆疑問な点、不明な点、学校への要望(ここがよくわかっていないようだ)等、お気づきの点は担任へもお知らせください。

◆べんきょうがおわったら

- べんきょうしたことを、おうちのひとに みてもらいましょう。
- えんぴつをけずり、あしたのじゅんびをしましょう。





家庭学習の手引き（3・4年生用）

寒河江市立南部小学校

3・4年生は、**40**分以上勉強しましょう!!

勉強の進め方

1 テレビなどは消しましょう。

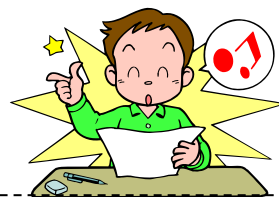
2 宿題をしっかりとやります。

- ① 文字や数字は、力を入れてしっかりていねいに書きます。
- ② ノートは下じきをして使い、日づけを書きます。
- ③ わからないところは、調べたり図をかいたりしてときます。

宿題は学習を確かに身につけ、家庭学習を毎日する習慣を育てます。

3 本読みをします。

- ・国語の教科書、かんなんテキストなど、すらすら読めるようになるまで練習しましょう。
- ・大きな声で、ゆっくり、はっきり読みましょう。
- ・会話文などは、気持ちをこめて読みましょう。
- ・暗唱にちょうせんしましょう。
- ・算数は次の日に学習する問題を読みましょう。



4 宿題が終わったら、自主勉強をします。

◇国語の例

- ・教科書の文をていねいにノートに写す。
- ・今日あった出来事などを日記や作文に書く。
- ・新しく習った漢字や覚えていない漢字を言葉や文にする。

◇算数の例

- ・計算ドリルをする。（自分で〇をつけ、まちがいはもう一度やる。すらすらできるまでやる。）
- ・テストやプリントでまちがった問題をノートに写して、もう一度とく。

◇その他…

- ・わからない言葉があったら、国語辞典で調べる。
- ・山形県の市町村名、都道府県名を読んだり書いたりする。
- ・ローマ字でいろんなものを書いてみる。

【お家の方へ】

☆音読・暗唱を聞いて、励ましてあげてください。

☆お子さんの学習に毎日目を通してあげてください。

☆疑問な点、不明な点、学校への要望（ここがよくわかっていないようだ）等、お気づきの点は担任へもお知らせください。

◆勉強が終わったら

- 勉強したことを、お家の人にみてもらいましょう。
- 連絡カードの音読のらんに、しるしをもらいましょう。
- えんぴつをけずり、明日のじゅんびをしましょう。





家庭学習の手引き（5・6年生用）

寒河江市立南部小学校

5・6年生は、**60**分以上勉強しましょう!!

勉強の進め方

1 テレビなどは消しましょう。

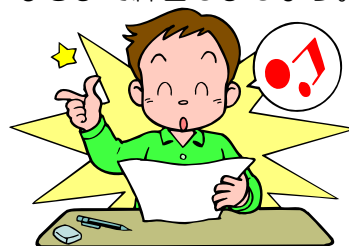
宿題は学習を確かに身につけ、家庭学習を毎日する習慣を育てます。

2 宿題をしっかりとやります。

- ① 文字や数字は、力を入れてしっかりていねいに書きます。
- ② ノートは下じきをして使い、日づけを書きます。
- ③ 分からないところは、調べたり図をかいたりして解きます。

3 本読みをします。

- ・国語の教科書、かんなんテキストなど、すらすら読めるようになるまで練習しましょう。
- ・大きな声で、ゆっくり、はっきり読みましょう。
- ・登場人物の気持ちや場面の様子、段落に何が書いてあるか、考えながら読みましょう。
- ・詩や短歌・俳句などは、暗唱に挑戦しましょう。
- ・算数は次の日に学習する問題を読みましょう。



4 宿題が終わったら、自主勉強をします。

◇国語の例

- ・教科書の文をていねいにノートに写す。
- ・今日あった出来事などを日記や作文に書く。
- ・新しく習った漢字や覚えていない漢字を言葉や文にする。

◇算数の例

- ・計算ドリルをする。(自分で〇をつけ、まちがいはもう一度やる。すらすらできるまでやる。)
- ・テストやプリントでまちがった問題をノートに写して、もう一度とく。

◇その他…

- ・わからない言葉があったら、国語辞典や漢字辞典で調べる。
- ・新聞記事や図書の本を読む。

【お家の方へ】

- ☆音読・暗唱を聞いて、励ましてあげてください。
- ☆お子さん本人に任せているということなく、学習に毎日目を通してあげてください。
- ☆疑問な点、不明な点、学校への要望(ここがよくわかっていないようだ)等、お気づきの点は担任へもお知らせください。

◆勉強が終わったら

- 勉強したことを、お家の人にみてもらいましょう。
- 連絡カードの音読のらんに、しるしをもらいましょう。
- えんぴつをけずり、明日のじゅんびをしましょう。



平成22年度 自主公開授業研究会

生き生きと学び合う子どもの育成
 「教えて考えさせる授業」を通して、
 すべての子どもに「確かな学力」を



寒河江市立南部小学校

研究主題


生き生きと学び合う子どもの育成
 ～「教えて考えさせる授業」を通して
 すべての子どもに「確かな学力」を～
 <3年次>

3つのKEY

- 1  「教えて考えさせる授業」の導入
- 2  子どもの学びの環境づくり
- 3  チーム寒南(教師力の高まり)

教えて考えさせる授業

東京大学大学院教育学研究科教授
 市川伸一氏



習得型学習スタイルの一つ

本校の子どもたちのこれまでの実態

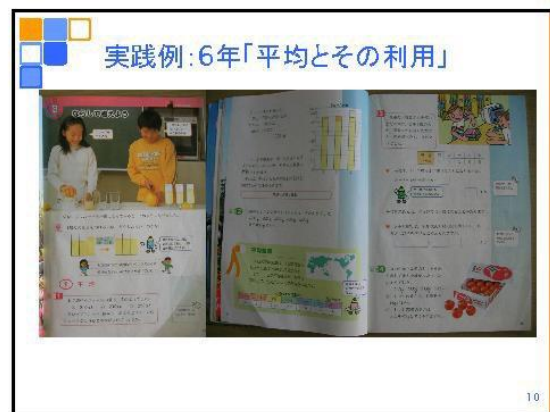
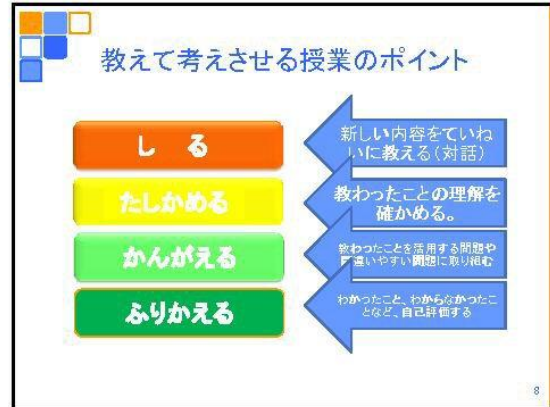
- ・基礎基本の定着の個人差が大きい。
- ・学習した内容を活用する力に乏しい。
- ・話し合い等、一部の子中心で進む。
 (話し合いのステージにみんなが立てない)
- ・家庭学習に個人差がある。

「教えて考えさせる授業」とは

従来

- 1  問題・課題提示
見通し
- 2  自力解決
集団解決
- 3  まとめ
練習問題

まとめ
理解確認
理解深化
振り返り



従来

- ①色水をならしてみる
- ②平均の意味を知る
- ③平均の求め方(計算)を知る
- ④例題を解く

- ・時間がかかる
- ・低位の子にとっては活動のみ
- ・例題までたどりつけない

11

「教えて考えさせる授業」として

- ①平均の意味と求め方を知る
- ②教わったことを説明する
- ③班対抗あめとりゲームをする
- ④平均の処理の仕方を知る

12

成果

- ・おそわったことが考える段階(ゲーム)に活かした
- ・視点がぶれずに体験活動ができた
- ・本来は次時で扱うべき、端数の処理の仕方にも踏み込めた

13

子どもの実際

- ・低位の子が、とった数の合計を班の人数で割ることを指摘した。

14

2つめのKEY

子どもの学びの環境づくり

15

①学びのルーム

火曜日の放課後、3年以上の希望者の学習会
学習内容のみならず、学習の仕方等、よりきめこまやかな個別指導

②つくし学習

火曜日の朝15分のドリルタイム
自分のペースで、下学年のプリント学習
問題を解く楽しみや繰り返しの定着

16

③家庭学習の手引き

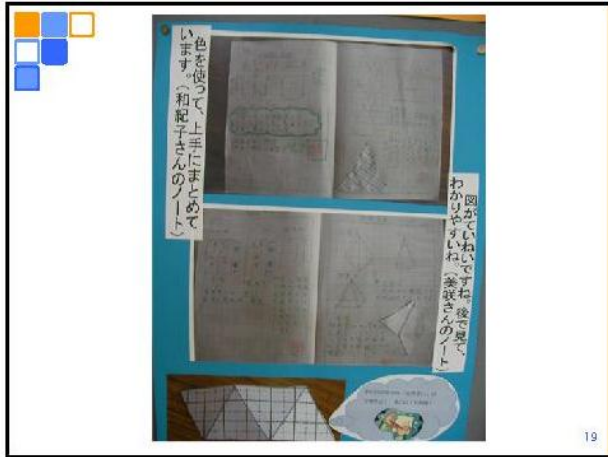
低・中・高ブロックごと各家庭に配付

- ・学校方針の理解
- ・子どもの学習に関心

17

④掲示教育(よさの可視化)

18



19



20



4つの研修

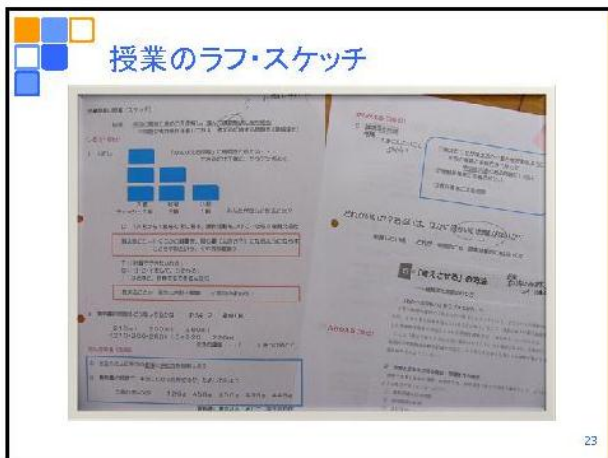
① 輪読会

21



② 事前研・事後研の活性化

22



23





24



③授業に活きる指導案作成

25

①同じ単元を、
共同で指導案作り

②発表 質疑 応答

作業を通して、研究を理解し合う

26



④模範授業(DVD)視聴研修

27

3つのKEYの実践より(中間報告)

子ども:かかわり合い、学び合う姿の日常化
子ども同士が考え合い、表現し合う算数の授業

教師:何を考えさせるのか、そのために何を教えるのか(意識化)

保護者:自分の子どもへの学習面でのかかわり方

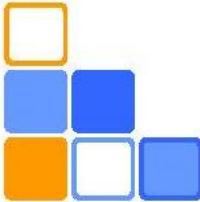
28

授業改善プロジェクト推進に向けて
10月15日(金)13:00~
自主公開授業研究会の開催



<http://academic3.plala.or.jp/nanbu/>

29



寒河江市立南部小学校

参考文献・資料等

- ・学ぶ意欲とスキルを育てる 市川伸一 小学館 2004
- ・「教えて考えさせる授業を創る」市川伸一 図書文化 2008
- ・自ら学びを高める子を育てる「教えて考えさせる授業」～横浜本町小の挑戦～ 明治図書
- ・教えて考えさせる授業～学力向上と理解深化をめざす指導プラン～ 市川伸一・鏑木良夫 図書文化
- ・埼玉県新座市立栄（さかえ）小学校 研究概要 2008 2009
http://www.c-niiza.ed.jp/e-sakae/contents/kenkyu/kenkyu_set.htm
- ・宮城県黒川郡大衡村立大衡（おおひら）小学校 研究概要
<http://www.pref.miyagi.jp/kyou-kikaku/oohira.html>
- ・明治図書「授業研究21 2010年2月号」教えて考えさせる授業の工夫・どこを見直すか
<http://www.meijitosh.co.jp/edudb/contents.asp?isbn=09640>
- ・ベネッセ教育研究開発センター（神奈川県横浜市立本町小学校の実践）
http://benesse.jp/berd/center/open/syo/view21/2007/09/s03chal_01.html
- ・長崎県教育委員会「新しい学習指導要領に対応した授業作りの提案～教えて考えさせる授業への転換」
<http://www.edu-c.pref.nagasaki.jp/box/siryoubox/osiete/osietemodel.pdf>
- ・宮崎県串間市教育委員会「活用力を育てる授業づくり～教えて考えさせる授業への取り組みを通して」
<http://mkkc.miyazaki-c.ed.jp/kenkyouren/20kenkyouren/data/kushima.pdf>

